

開催日: 5月5〜6日 開催場所: サーキットパーク切谷内 格式: 国内 主催: MSCはちのへ [クラブ登録No.加盟02024]、AKITA [クラブ登録No.加盟05026]

フォト/友田宏之、JAFスポーツ編集部 レポート/ JAFスポーツ編集部

九州の岩下幸広ランサー、東北切谷内で念願の全日本初優勝!



JAFカップで優勝などゲンがい切谷内の地で全日本初優勝を飾ったSC2岩下幸広選手。

全

日本ダートトライアル選手権第3戦はゴールデンウィークを締め括る5月第1週の週末に、青森サーキットパーク切谷内で開催され、130台を超える精鋭達が一戦を競った。

テクニカルな内周と、路面も硬く引き締まり、高低差も手伝ってスピードも乗る外周が組み合わさった切谷内は、セクションに応じたメリハリのあるドライビングが要求されるコース。所々に待ち受けるギャップを巧みにかわしてロスを最小限にとどめる読みも肝心だ。今年も例年同様、砂の掃けたヒート2では硬い路面が顔を出したが、スーパードライタイヤの登場は例

年よりは遅く、SC部門に入ってからという傾向が見られた。微妙に路面上に残った土そして砂利が、ナンバー付き車両のドライバー達のタイヤ選択を大いに悩ませたようだ。

PN2クラスはヒート1でただ一人、1分46秒台にタイムを乗せた宝田ケンシロー選手がヒート2でも4秒タイムを詰め、2番手に1秒以上の大差をつける走りでZC33スイフトでの初勝利をもぎ取った。

「2本めはほぼ完璧な走り。“細木君なら、ここは行くよねえ”とか思いながら頑張りました(笑)。自分は32スイフトの延長上で走らせてたんですけど、思った以上に行けるクルマか

もしれない。ある意味、自分の殻を破れた走りのできたので、この感覚をキープしたい」と宝田選手。一方の細木選手はヒート2、ゴール手前の最終コーナーで転倒。前戦切谷内に続く2連勝はならなかった。

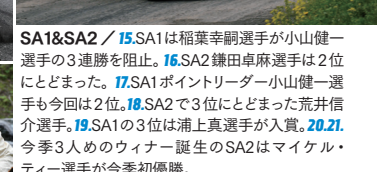
一方、SA1クラスは、開幕2連勝の小山健一選手がこの日も絶好調。ヒート1では2番手の浦上真選手を1秒以上も引き離す1分43秒492のタイムで暫定首位に立つ。勝負のヒート2は41秒台の攻防となるも、小山選手も41秒098までタイムを上げて勝負あったかと思われたが、ラストゼッケンの稲葉幸嗣選手が40秒268の驚愕のベストを叩き出して今季初優勝を



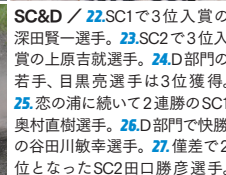
PN1&PN2 / 1.「しっかり踏み切れました」。PN1は山崎利博選手が今季初優勝。2.5.PN2は宝田ケンシロー選手が2本ともベストを奪って快勝。3.地元のPN1佐藤卓也選手は2位に甘んじた。4.PN2で2位入賞の鳥居晴彦選手。このクラスは新型スイフトが1-2。6.PN1工藤清美選手は3位獲得。7.PN2の3位には櫻井貴章ウィッツが入賞。



N1&N2 / 8.N2は北條倫史選手が優勝。「やっと勝ててホッとしました」。9.N2で2位入賞の地元東北、浅沼賢志選手。10. 地元で勝利を狙ったN1今隆志選手だが、惜しくも2位。11.14.「丸和以外のコースで勝つのが課題だったので素直に嬉しい」。N1はミラージュで奮闘する古沢和夫選手が全日本2勝目を獲得。12.N2の3位は信田政晴選手。13.N1岡翔太選手は連勝ならず、3位。



SA1&SA2 / 15.SA1は稲葉幸嗣選手が小山健一選手の3連勝を阻止。16.SA2鎌田卓麻選手は2位にとどまった。17.SA1ポイントリーダー小山健一選手も今回は2位。18.SA2で3位にとどまった荒井信介選手。19.SA1の3位は浦上真選手が入賞。20.21.今季3人めのウィナー誕生のSA2はマイケル・ティー選手が今季初優勝。



SC&D / 22.SC1で3位入賞の深田賢一選手。23.SC2で3位入賞の上原吉就選手。24.D部門の若手、目黒亮選手は3位獲得。25.恋の浦に続いて2連勝のSC1奥村直樹選手。26.D部門で快勝の谷田川敬幸選手。27.僅差で2位となったSC2田口勝彦選手。28.今年からD移行の平塚忠博選手が2位。29.SC1山崎迅人選手は逆転を許して2位でゴール。

飾った。
「1本めは元々重いDC5のハンドルを回しきれなくて。周りの人にも散々言われたんで色々考えたんですが、2本めはセッティングは変えずに走りでカバーしようと思き直りました」という稲葉選手。「前半の内周のロスを最小限にとどめたのが勝因ですかね。でも最終コーナーに入る時に、きれいに走れたなと実感できたんです。小山さんに3連勝されるとほぼ終わりがな

という気持ちもあったけど、勝ちを意識せず、走りに集中したのがよかったんでしょう」。その小山選手は「ちょっと頑張りました」と悔しさを滲ませていた。

参加23台と今回も最大の激戦区となった、続くSA2クラスでは、ヒート1、タイヤバーストのため途中でドライブをあきらめたマイケル・ティー選手が、ヒート2、並み居るシード勢をこぼろ抜きして今季初優勝を飾った。



選手会主催の同乗走行会は今回も賑わいを見せた。

「タイヤはウェットの74も考えたけど、最後の最後で思いっきり走ろうと思って88にしました。路面が似てる今庄で切谷内対策はしてきたんだけど、イメージしてきた路面とはかなり違ったんで、路面に合わせてラインだけは外さずに全開、という走りでした」とマイケル選手。「何より、このクルマを作ってくれた青森

の三上さんの目の前で恩返しできたことが嬉しい」と笑顔を見せた。

そしてSC2クラスでは、昨年のこの一戦、まったくの同タイムながら2位に甘んじた九州の岩下幸広選手が、田口勝彦選手を0.066秒という僅差で下して念願の全日本初優勝をもぎ取った。遠く離れた地ながらこ切谷内でのJAFカップを数年前に制した岩下選手は「初優勝するなら、ここだと思っていた」と秘かに期すものはあったようだ。「何か、ここは自分の理想の走りが組み立てられるんですよね(笑)。2本めの前も、自分がイメージしてた通りに走ったマイケル選手が勝ってくれたので、これでいいんだと確信できました。ここは本当にホームのような感じがします」と岩下選手。表彰式では極楽まっけて言葉を詰まらせる一幕もあり、多くの人々の感動を呼んでいた。